

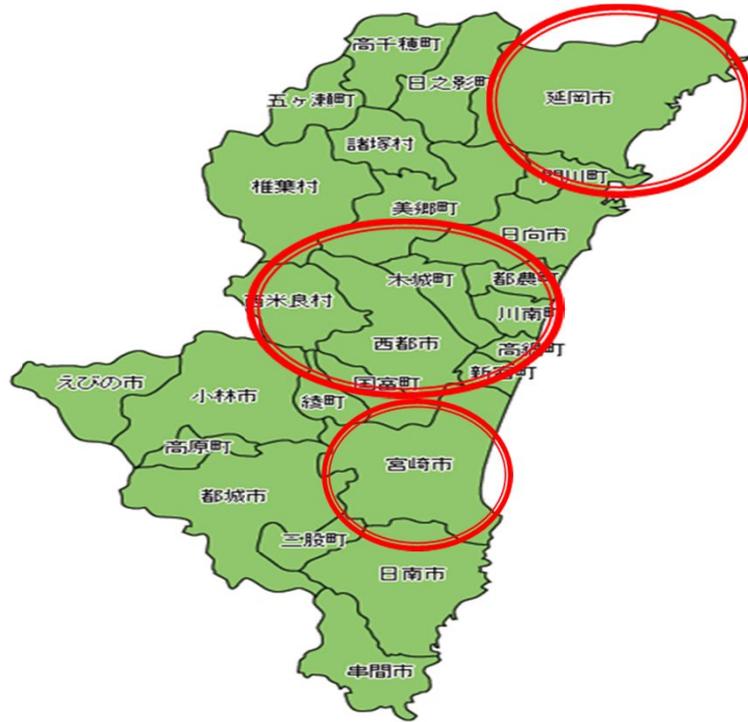
宮崎県

さざ波からビックウェーブへ

宮崎県では、圏域毎に官民で地域移行に関してのビジョンを考え、精神障がい者の地域移行の取り組みを行っている。

また、人材育成については多職種団体を巻き込みながら研修を行う予定。

県の基礎情報



取組内容

【人材育成の取り組み】

- ・多職種団体を巻き込んだ連携研修

【精神障がい者の地域移行の取り組み】

- ・地域移行支援実務者研修会：圏域ビジョンの検討会
- ・圏域ビジョンの進捗状況の確認

宮崎県	
圏域数	8か所
人口	1, 108, 350 人
精神科病院の数	25病院
精神科病床数	5, 837床
入院精神障がい者数	3ヶ月未満: 878人(16.8%)
	3ヶ月以上1年未満: 806人(15.4%)
	1年以上: 3548人(67.8%)
退院率	入院後3ヶ月時点: 58.1%
	入院後1年時点: 83.1%
相談支援事業所数	一般相談事業所数: 47か所
	特定相談事業所数: 114か所
障がい者福祉サービスの利用状況	地域移行支援サービス: 37人
	地域定着支援サービス: 41人
(自立支援)協議会	未設置
精神保健福祉審議会	設置(障害者施策推進協議会)

* H27年7月時点

地域移行推進のための人材育成の取り組み

年度	～23年度まで
内容	<p>①地域の専門家の養成研修 相談支援専門員、医師、看護師、保健師、精神保健福祉士等を対象に、知識技術の習得、先進地域への視察研修や実習などに派遣した。</p> <p>②地域移行の理解促進のための基礎研修 市町村職員、地域住民、障がい福祉サービス事業所等対象に、障がい者の特性の理解のため、元長期入院者の体験談をきいたり、施設見学等をおこなった。</p>
実施主体	<p>①県 ②委託：精神科病院協会、精神保健福祉士会、家族会、日本精神看護技術協会</p>
役割	県は、専門家養成。地域の関係職種等幅広く理解促進を促す啓発は、地域の関係団体が担った。

地域移行推進のための人材育成の取り組み

年度	24年度～25年度まで
内容	<p>①地域のサービス事業者に対する研修 精神障がい者に対する支援を実施したことのない障がい福祉サービス事業者、介護サービス事業者等に対して支援に必要な技術や知識を提供する。</p> <p>②ピアサポーター育成研修 地域で生活している障がい者を対象に研修。</p>
実施主体	①、②ともに、委託先である圏域毎の地域活動支援センター I 型において実施。
役割	圏域の管轄保健所が、研修内容等について支援をおこなった。

地域移行推進のための人材育成の取り組み

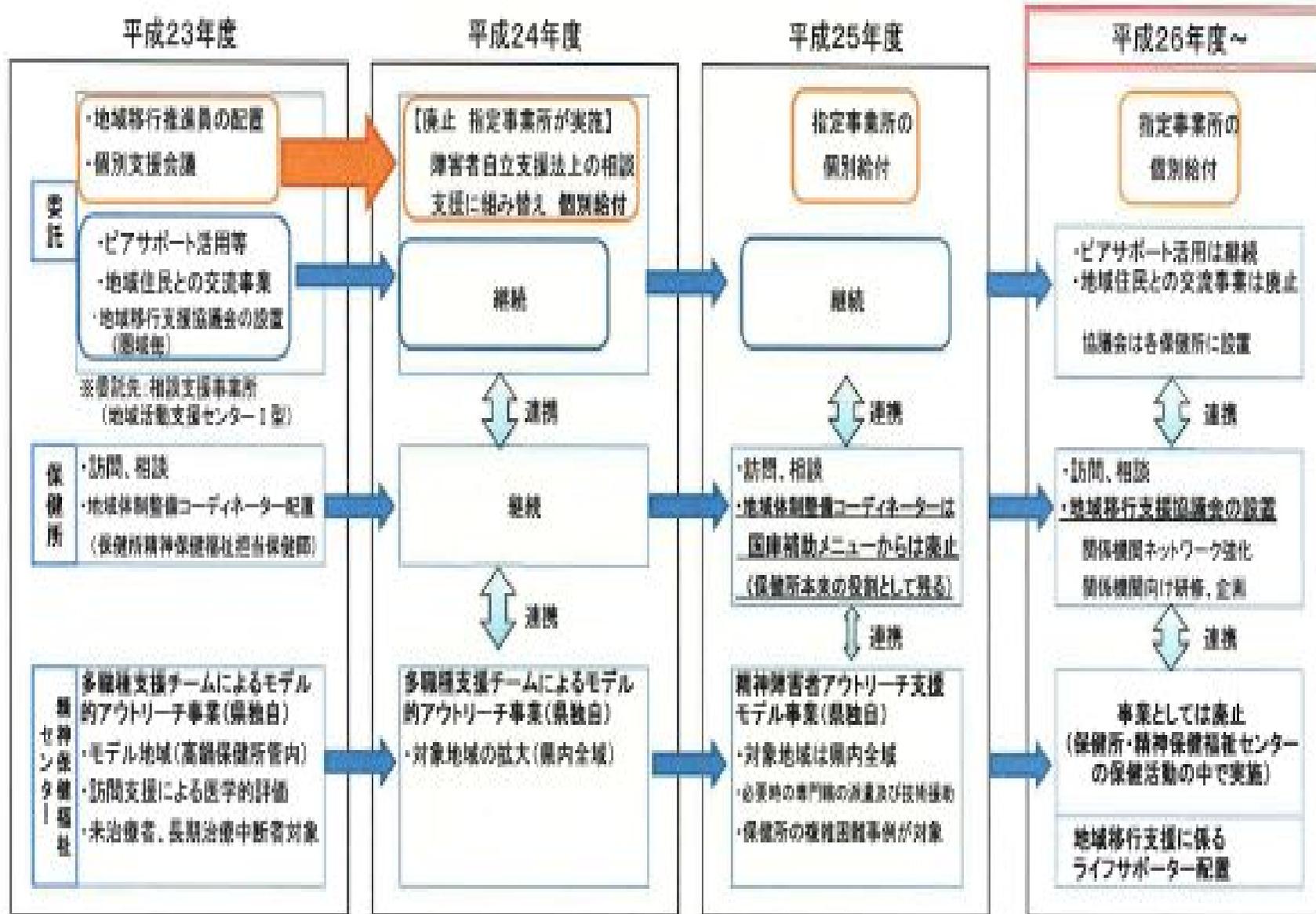
年度	26年度
内容	<p>地域移行支援実務者研修会</p> <p>圏域毎の行政職員(保健所、市町村)、病院(看護師、P SW)、相談支援事業所の相談支援専門員等を対象に圏域毎の課題を明確にし、ビジョンを考える。さらに、各圏域で実践する。</p>
実施主体	県
役割	保健所に設置している協議会が、圏域のビジョン展開のため、関係機関と連携を図りながら地域移行を進める。

地域移行推進のための人材育成の取り組み

年度	27年度
内容	<p>地域移行支援に関する他職種連携研修会</p> <ul style="list-style-type: none">・実務者研修会 各圏域毎のモニタリングと他職種連携の推進を行う・他職種連携研修会 他職種連携の必要性と実践方法を学ぶ。
実施主体	<p>主催：県精神保健福祉士会 共催：県、作業療法士会、日本精神科看護協会支部、 相談支援専門員協会</p>
役割	<p>保健所に設置している協議会が、圏域のビジョン展開のため、関係機関と連携を図りながら地域移行を進める。</p>

【宮崎県】精神障害者地域移行支援事業体制

宮崎県



※ライフサポーター配置は26年度のみ

3-1 延岡圏域での取組①

宮崎県

延岡地域精神障がい者地域移行支援協議会

下部組織
(実動)

精神障がい者地域生活支援会議

精神障がい者の地域生活を支援する事業所・当事者が集まり、事例検討や研修会を行う集合体
平成15年頃から延岡保健所にて定期的に実施中

2か月に1回
(年6回程度)開催
会議メンバー
約20名

会議参加者全員で精神障がい者の地域移行に関するビジョンや研修企画の検討をする

3 - 1 延岡圏域の取組①

24年度長期入院患者のアンケートから見えてきたもの

(病院職員) 患者が退院した場合に、利用してほしいサービスがある。

体験利用や見学などの行動化にはつながっていない

患者本人も病院外のサービスを知らない

特に患者により
身近な看護師さん

病院職員は地域の社会資源について知っている
でも、**長期入院患者に伝わっていない可能性あり**

病院職員と地域の職員との交流が生まれれば、
病院職員が生きた地域の情報を知れる！
→病院職員から長期入院患者へ地域の情報を伝えられる！

地域の職員が病院に入り込もう！

3-1 延岡圏域の取組①

うちの自慢は ココ！

〈精神障がい者地域生活支援会議 3か年の目標・実施内容〉

H26 〈周知〉

地域援助事業者や地域のサービスを病院職員、入院患者に周知

→院内研修会内容：

- ① 退院前の準備（指定相談事業所の紹介）、
- ② 地域生活の支援体制（住まい、仕事・就労、相談先）

H27 〈考える〉

長期入院患者の退院に向けて、患者に合った支援を病院と地域で一緒に考えることができる

→圏域ビジョンを官民多職種で協議、評価

院内研修会内容：支援を行い退院に至った事例報告

H28 〈実践〉

病院側からの事例提供のもと実際に退院支援を行い、病院と地域の連携体制の構築

3-1 延岡圏域の取組(26年度) ～精神障がい者地域生活支援会議 院内研修会～

宮崎県

事業所を紹介してみようと思わない・どちらとも言えない



事業所を紹介してみようと思う



3-1 延岡圏域の取組①(27年度)

宮崎県

圏域ビジョンの検討

～地域移行支援実務者研修会(H27.3)で用いたワークシートの確認～

- ・ 医療従事者の意見……………地域移行の意識の低さ、患者の退院先についての問題。
- ・ 行政の意見……………研修会の企画、運営が保健所中心になっている。
- ・ 地域援助事業者の意見……病院への入りにくさ、病院職員との関わりについての問題。

既存の資料では把握できない多職種の生の声を把握できた。

～地域生活支援会議(H27.8)参加者の意見～

- ・ 医療従事者の意見……………看護師の福祉分野に関する知識不足、無理に退院させられると不安を抱く患者への対応
- ・ 行政への要望……………地域移行の実績、データを明確にしてほしい、行政の役目ではないか
- ・ 地域援助事業者の意見……依然として医療との連携は課題、退院後の患者の日中生活についての不安。

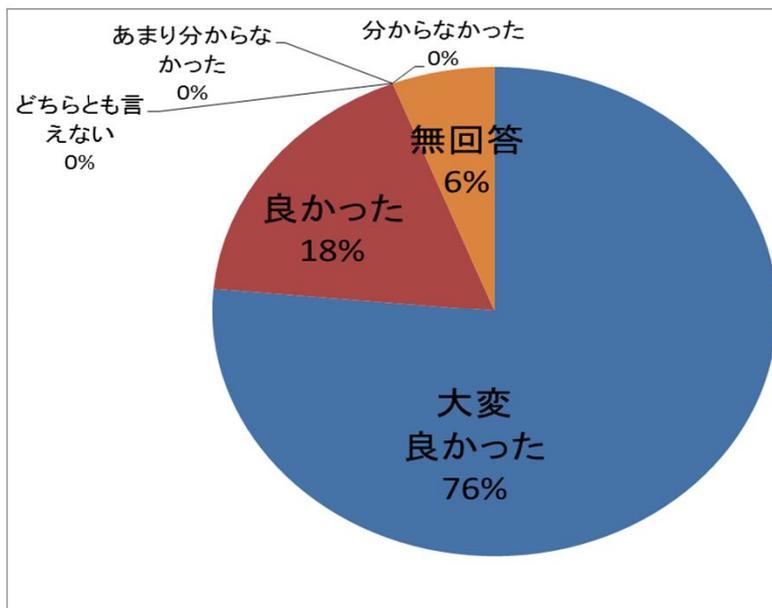
★それぞれの分野から意見を引出すことができた。

3-1 延岡圏域の取組①(27年度)

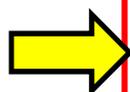
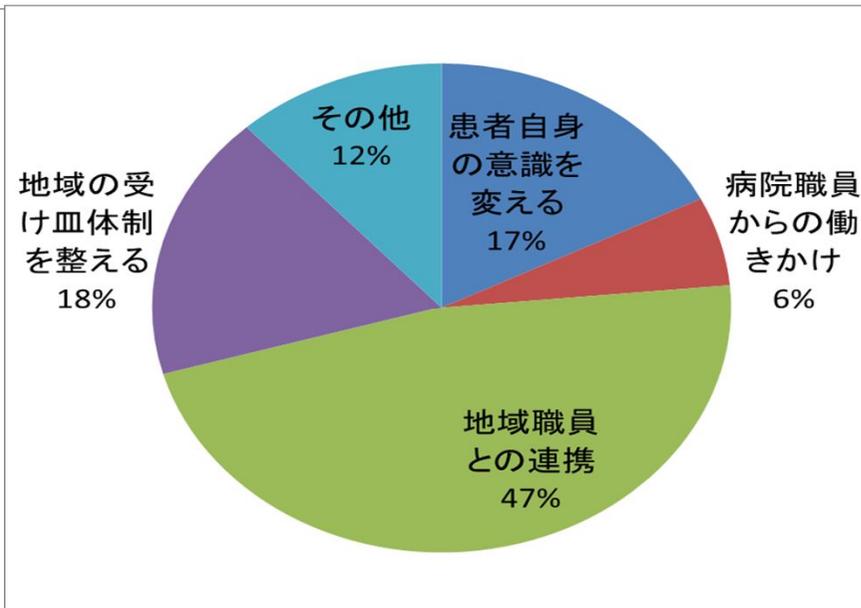
宮崎県

- 事例検討会終了後のアンケートから見てみたもの

＜事例検討会の満足度＞



＜地域移行支援を進めていく中で必要なこと＞



- 参加者は事例検討会に概ね満足できており、適切だった。
- 半数が「地域職員との連携」が必要であると実感しており、退院支援に少しでも病院と地域との繋がりが増えていく良い機会になったのではないかと考える。

地域職員の役割が分かった。



退院支援サポートを知りたい。

3-1 宮崎東諸圏域の取り組み①

宮崎県

圏域のビジョン 『本人も家族も安心して退院出来る地域づくり』
～いろいろな立場の人と一緒に考える宮崎東諸圏域～

宮崎市自立支援協議会「暮らし部会」に**地域移行推進チーム**を結成！



医療、福祉、行政、当事者…いろいろな立場の人たちが同じテーブルで話し合い、地域移行についての課題を共有！



『この人地域移行の対象者になりますかね～』という議論をこの場で行い、個別給付化につなげるために！

<具体的な活動内容…>

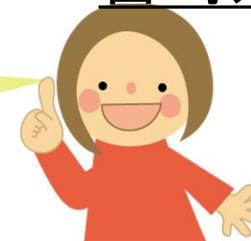
- ①月1回定例会にて情報の共有
(医療と福祉の顔の見える連携の強化！)
- ②病院での研修会や勉強会開催
(患者さん向け、病院スタッフ向けをピアスタッフと！)
- ③出前事例検討会
(地域援助事業者が病院に出かけ事例検討会を実施！)



3-2 宮崎東諸圏域の取り組み①

宮崎県

うちの自慢はココ！



医療と福祉の顔の見える
関係づくりの場を構築！



これまで、地域のどんな支援者さんが退院支援に関わってくれるのか顔が見えず不安でしたが、この場でいろんな地域援助事業者の方とつながりが出来て、地域移行のサービスを患者さんに勧めてみようと思えるようになりました。(病院PSW)

ピアサポーターと
共に考え、行動する！



まだ一度も地域移行に取り組んだことはありませんが、定例会に参加すると色々勉強になり、地域移行支援をやってみたい、と思いますし、積極的にやるべきことなんだという認識が変わってきました。(地域援助事業者)



『私も地域移行支援を利用して退院しました。今となってはどうしてもっと早く退院しなかったんだろうと思います。自分のような患者さんはまだまだいます。どうか、気にかけてやって下さい。話しかけてやって下さい。』地域移行を利用して退院したピアサポーターが研修会にて活躍中！

3-1 西都児湯圏域の取り組み①

宮崎県

保健所が中心となり、『地域移行支援協議会』（各圏域に保健所ごとに設置が必要）を立ち上げ、**機能させている**数少ない圏域のひとつ！

平成26年度の協議会で課題の抽出

1. 制度の周知、理解促進（入院患者の退院意欲）
2. 連携体制作り（医療機関と地域援助事業者の連携、就労先の確保等）
3. 地域の理解、支援体制（居住先の確保、保証人の問題）

平成27年度 (1) 制度の周知・理解促進

ア. 医療機関スタッフ、地域援助事業者合同での勉強会

イ. 入院者や家族への案内パンフレットの作成

ウ. 事例検討

(2) 地域の理解・支援体制

ア. 地域資源調査として民間不動産業者への意向調査

イ. 地域住民に対する普及啓発

平成28年度 (1) 地域移行支援の実践

(2) 実践を踏まえての課題整理

プロジェクトチームにて実施！

3-2 西都児湯圏域の取り組み①

うちの自慢はココ！

宮崎県

★地域移行支援部会のプロジェクトチームにて・・・(年4回実施)★

分かりやすい
パンフレットが完成！

地域移行活性化自主プロジェクトチームが作成したパンフレットをベースに、より分かりやすいものが完成。パンフレットを作成する過程において、医療と福祉の顔の見える関係が構築され、お互いの役割を理解し、連携が強化される機会にもなった。

民間不動産業者への
意向調査を実施！

精神障がい者への賃貸の実態、意向の把握のために実施するアンケートの作成。平成28年3月に収集、分析予定。今後、賃貸に必要な対策の基礎資料とする！アンケートの項目を検討する中で居住の確保の難しさ、事例に基づく成功例など情報共有が出来たことも有効であった。

看護師さん向けにピアスタッ
フによる研修会を実施！

病院の院内研修会の場で、医療関係者と地域援助事業者が合同で研修会を！地域移行を利用して退院したピアスタッフによる話が、医療スタッフの心を動かし、「あの人も退院が出来るかもしれない。」と地域移行の利用を検討する声が聞こえ始めた！

4 県としての来年度への抱負

- 地域移行推進のための人材育成

圏域毎の関係職種を対象とした地域移行の研修の継続
各圏域内では、地域の関係職種等に対する研修

- 市町村支援について

(市町村)自立支援協議会との協力体制
圏域毎のビジョン検討の場での「障がい者プラン」「障がい福祉計画」の
周知・評価

- 地域移行の推進について

各圏域毎の保健・医療・福祉ネットワークの強化
ピアの活用の推進

5 次年度の戦略

【長期目標】

保健所に設置している協議会が、圏域のビジョン展開のため、関係機関と連携を図りながら地域移行を進める。

【短期(次年度)目標】

全県下で圏域ビジョン・実施計画を関係者に周知
圏域ビジョン・実施計画の展開や評価